

野湾市の酒販売店の売上金から、偽造五千円札が発見された。二枚の記番号は同じだった。偽札は赤みがかって透かしがないため、カラーコピーの可能性があるという。

このほか、七日にも同村のホテルの売上金から偽五千円札が見つかった

## 今夕まで 大雪注意 一 県

十二日夜から真冬並みの寒気が入り込んだ県内は十三日夕方にかけて、大雪や強風により、波が高

# 「捕虜虐殺」はねつ造

第二次世界大戦末期、佐渡市で連合国軍捕虜三百八十七人が虐殺されたとするニュージブランド人作家の著書に対し、新潟国際情報大のグレゴリー・ハドリー助教授らが十二日までに、虐殺はねつ造とする研究結果をまとめた。ハドリー助教授は「虐殺説は歴史観をわい曲し、後世に誤った認識を与えかねない」として、近く国内外の雑誌に論文を発表する予定だ。

国際情報大・ハドリー助教授ら



「上層部の裏切り」について話すグレゴリー・ハドリー助教授 新潟市の新潟国際情報大

## 佐渡金山で387人生き埋め

同書はジェームズ・マカイ氏著「上層部の裏切り」。戦後日本に滞在していた戦争犯罪調査官ジェームズ・ゴドウィン氏が隠し持っていた資料を基にしており、一九九六年に英語版が、その後中国語版が出版された。同書は「第二次世界大戦に興味

### 表記不自然 目撃なし

## 研究論文まとめ

がある人なら読む本」（ハドリー助教授）で、その後出版された歴史書にも引用されているという。

助教授は「外国人が珍しかった当時、三百八十七人も存在を隠すことは不可能。いなかったとみるのが妥当」と話す。

資料の中で、佐渡市での虐殺を記しているのは「ファイル125M」。同ファイルには、旧日本軍が四五年八月二日朝、相川金山で強制労働させていた連合国軍捕虜三百八十七人を鉱山内に集めて爆破、生き埋めにしたと記されている。

これに対し、ハドリー助教授と

ハドリー助教授は「ねつ造によって旧日本軍の残酷性を強調し、元捕虜らの補償要求を後押ししようとしたのではないか。かえって、旧日本軍が東南アジアで行った捕虜虐待まで真偽を疑われかねず、公正な歴史を示すことが必要」と語っている。

オーストラリアの研究者は二年半かけて日米の公文書を調査。ほかの資料がメートル法表記なのに125Mはフィートを用いていること、同ファイルだけがドウィン氏の名が違う字体でタイプされていること一などから、125M自体がねつ造された可能性が高いと指摘した。

また調査に協力した佐渡市の郷土史家が高齢者に行った聞き取りでは、誰も連合国軍捕虜の存在を知らなかった。ハドリー